グラフィックデザイナー

新村則人さん

普段の人懐っこそうな笑顔と穏和な雰囲気とは裏腹に，デザインを見つめる鋭い目線の先には，我々の想像力を超えた斬新かつ大胆なアートの空間が広がっている。数々の賞に輝き，商業デザインからエコロジーまで幅広く活躍する，今最も注目されるデザイナーのひとりである新村則人氏に，東弁ロゴの制作秘話と今後の活動について聞いた。

（聞き手・構成：城﨑 建太郎）

東京弁護士会

── 新村さんには，東弁ロゴの制作にご尽力を頂き，誠にありがとうございました。私も，プロジェクトチーム（PT）のひとりとして，新村さんと一緒に議論しながらロゴの制作に携わらせて頂き大変楽しかったです。今回は，東弁ロゴの生みの親の新村さんについて，会員にもっと知って頂ければと思っています。

まず，新村さんがデザイナーになったきっかけについて教えて頂けますか。

私は瀬戸内海にある浮島（うかしま）という人口200人ほどの小さな島の生まれで，親も漁師をしていましたから，釣りをしたり泳いだり，遊びといえば海と戯れることという少年時代でした。もっとも，私は家で絵を描いていることの方が好きでしたけれどね。

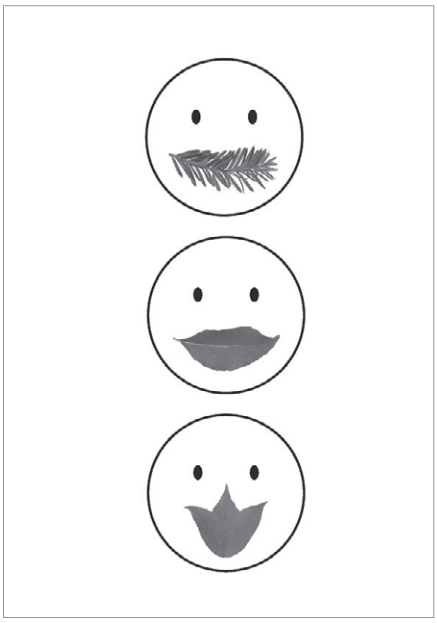
小さい頃から絵を描くことは好きでしたが，小学校の時，中学校の美術の先生が赴任してきたんですよ。この先生が図工の時間にたくさんポスター制作の課題を出したんです。よくありますよね，防災月間のポスターとか，歳末助け合いのポスターとか。そういったコンクールに生徒をどんどん参加させたんです。この頃ですね，私が単に絵を描くだけでなく，デザインというものに興味を持ったのは。

中学，高校では，学校のほうでデザイン関連のコンクールの応募がなかったものですから，自分で探してきて応募していました。全国レベルのコンクールにもたくさん応募して，いくつか大きな賞ももらったことがあるんですよ。

── やはり，その頃からデザイナーになろうと思っておられたのですか。

なんとなくそういう夢はありましたけど，学校の美術の先生になりたいとも思っていました。でも，大学受験で失敗してしまいまして（笑），ほかの大学を受けたり，浪人したりするつもりはなかったので，このとき先生の道はすっぱり諦め，デザイナーになるべく大阪の専門学校に入学したんです。

2年間専門学校で学んだ後，大阪のデザイン事務所に就職したのですが，自分のやりたいこととは違うような気がして，3年間勤務した後，心機一転東京に出てきたのです。



Green Smile 3

山口県漁連 環境広告

東京に来て最初に就職したのが，松永真デザイン事務所というところで，ここで学んだことが後々の私の創作活動に大きな影響を与えたと思います。

── 松永事務所でどのようなことを学んだのですか。

松永先生は，細かくあれこれと教えてくれる人ではないんですよ。ただ，時々仰る格言めいた一言が，なかなか意義深いものがありまして。

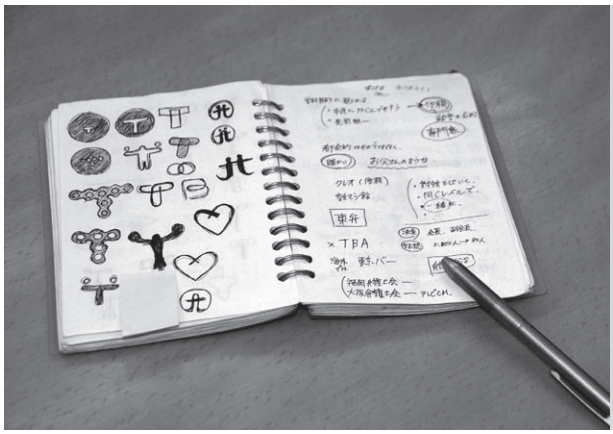
いつだか，「デザインしないこともまたデザイン」と仰ったんですね。デザインの中に，余計なものは要らない。例えば，真っ白の紙であっても，それで伝えたいことが伝わるなら，それがデザインだということ。私も，デザインは極力シンプルなものがよいと思っていたのですが，大阪にいたころは，色々盛り込むデザインが多く，方向性の違いを感じていました。松永先生のもとで働いて，自分の目指す方向性が間違っていないと確信したんです。

── 我々も，仕事の上で色々書面を書く機会がありますが，私自身，シンプル・イズ・ベストと思っていても，ついつい文章が長くなってしまいます。中には長文至上主義のような弁護士もいますけど（笑）。

色々付け足したくなる気持ち，よくわかります。でも，短い文章を書くというのは，ひとつの才能ですよね。伝えたいことを少ない言葉で表現できるということですから。

── 今回のロゴも「t」と「ハート」を組み合わせたシンプルなデザインですが，新村さんの他の作品もシンプルさを追求したものなのでしょうか。

そうですね。自然とシンプルになっていますね。それともうひとつ，「わかりやすい」ことも大事にしています。伝えたいことが子どもでもわかるものがよいと思っています。山口県漁連の環境広告コンクールに出品した作品があるのですが，葉っぱで魚をかたどっている。テーマは，「海の魚は，森に育てられる。」──わかりやすいでしょ。森で作られた栄養分が川から海へ運ばれて，プランクトンを育て魚の餌になっている。だから森を殺すことは魚の死を意味する，ということなんですけど，説明がなくても伝わるデザインがよいと思うのです。



「デザインしないこともまたデザイン」例えば，真っ白の紙であっても，それで伝えたいことが伝わるなら，それがデザインだということ。自分の目指す方向性が間違っていないと確信したんです。

新村則人

── ちなみに，新村さんの名刺に描かれている口が葉っぱの丸顔のイラストは，新村さんご自身をモチーフにしたものですか。

人からはよく，新村さんに似てますねぇと言われるのですが，…私じゃないです（笑）。

── 作品のイメージは，どういう場所でふくらませるのですか。今回のハートのロゴは？

人によって色々あると思いますけど，私の場合，電車の中が多いですね。一見テーマと全く関係ないものでも，それを見て急にひらめいたりする。東弁のロゴも，電車の中で中吊り広告を見ながらふと思いついて，それを試行錯誤して，最終的にあのデザインになりました。

── 今回，最終的にはハートのロゴに決まりましたが，候補の中には法被のロゴがありましたよね。積極的に推す意見もあればかなりきつい反対意見もありましたが，それだけ議論を巻き起こし，最終選考の台風の目でした。

私自身けっこう気に入ってましたね。

── PTは最初，江戸あるいは下町的なデザインには消極的で，新村さんも戸惑っていませんでしたか。うちのリーダーがひとり気を吐いていたようにも思えるのですが（笑）。

最初の打ち合わせの時，PTのリーダーさんが，江戸，下町というイメージで，と仰ったときは，正直どうしようと思ったのですが（笑），作ってみると，楽しいデザインができたので，もし法被に決まったら画期的だなぁと思っていたんですけどね。

── 新村さんの，今後の活動のご予定をお聞かせ下さい。

10月5日（火）から28日（木）まで，ギンザ・グラフィック・ギャラリーにて「海と山と新村則人展」と題して個展を行うことになっています。ぜひお越し下さい。

また，環境問題には，何かしらの形で関わっていきたいですね。デザインは世界共通の言語ですから，デザインを通じて，世界中にメッセージを発信していければと思っています。

── ありがとうございました。

プロフィール　しんむら・のりと

1960年山口県生まれ。大阪デザイナー学院卒業。松永真デザイン事務所を経て，新村デザイン事務所設立。主な仕事に資生堂「エリクシール」「ZEN」のデザイン，「無印良品」「マクドナルド」のアートディレクションなど。東京オリンピックの立候補ファイルのデザインも手がける。JAGDA新人賞，毎日広告デザイン賞最高賞，ニューヨークADC銀賞，ブルノ国際デザインビエンナーレ金賞，東京ADC賞など受賞。